

## B型肝炎について

### (1) B型肝炎とは

B型肝炎とは、B型肝炎ウイルス（HBV）に感染することで肝臓に異常が生じる病気の総称です。HBVに感染しても自覚症状が現れないケースが多いものの、肝炎を発症すると肝硬変、肝がんといった肝臓の病気を引き起こす可能性が高くなります。気付かないうちに重篤な病気へと進行する例も見受けられるため、注意が必要です。

### (2) B型肝炎の原因

HBVは主に血液など体液を介して感染します。感染経路として垂直感染・水平感染が挙げられます。垂直感染として挙げられるのは母から子への感染です。出生時に産道で感染する場合や妊娠中に子宮内で感染する場合などが挙げられます。垂直感染では、持続感染が多く、ウイルスを保有しているものの、肝機能が正常で特別な症状が認められない“無症候性キャリア

リア”が約80～90%を占めるとされます。残りの約10～20%では、継続的な炎症が続く慢性肝炎の症状が現れます。

このうち年間約2%が肝硬変へと移行し、肝細胞癌や肝不全に進行するとされています。

一方、水平感染としては性行為による感染や不衛生な医療器具を使用したことによる感染、入れ墨やピアスの穴開けなどによる感染などがあり、一過性の急性肝炎として発症します。急性B型肝炎は慢性化しないとされています。

### (3) B型慢性肝炎の治療

ましたが、最近では10%程度慢性化するリスクがあるとされています。

HBVは一度持続感染の状態になると、体の外に排除することは難しいといわれているため、慢性肝炎の場合は肝硬変や肝がんへの進展を予防し、生活の質を維持することが治療の目的となります。

慢性肝炎の治療方法は、抗ウイルス療法が主体です。血液検査でALTが高く、HBV-DNA量が多い患者が治療対象になります。また、肝硬変の患者様はHBV-DNA量にかかわらず、肝臓の発症抑制目的に治療を行います。治療はインターフェロンもしくは核酸アナログ製剤の投与になりますが、ほとんどの症例は核酸アナ

ログ製剤が投与されます。一度、治療が開始されるとHBVの完全排除は困難あり、一部の症例を除いて生涯にわたり治療が必要になることが多いです。

### (4) B型慢性肝炎の治療の助成制度

B型慢性肝炎、B型肝炎硬変に対するインターフェロン治療と核酸アナログ製剤治療は、医療費の助成が受けられます。患者の世帯所得（市町村民税課税年額）に応じ、その自己負担限度月額を原則1万円（上位所得階層は2万円）に軽減されます。ただし、抗がん剤や免疫抑制剤投与中のB型肝炎の再活性化予防に対して、投与された核酸アナログ製剤治療に対しては、助成の適応ではありません。

（文責 佐藤 亘）